

# 課題探求の楽しさを知る 自律的学修者としての 国際人を育成

平成26、29、30年度 選定



## 東洋学園大学

### 取組のポイントや補助効果等

- ◆ 独自の教育リソースを集結した徹底的な英語教育と国際教養教育を展開
- ◆ 国際都市ならではのグローバルな学びを提供

世界中から人や情報が集まるグローバル都市・東京（文京区本郷）に一体型都心キャンパスを構える東洋学園大学は、現代経営学部、グローバル・コミュニケーション学部、人間科学部の3学部を設置し、英語教育・教養教育・国際交流プログラムを3本の柱とした教育により、時代の変化に応える国際人を養成している。

1号館前面のひときわ目を引く「フェニックス・モザイク」壁画は、学園の象徴的な存在として大学ロゴマークの起源になっている他、文京区第7回文の京（ふみのみやこ）都市景観賞「景観創造賞」を受賞し、街の顔としても愛されている。

### 取組の目的・背景

大学の目的を「高い理想のもとに深い教養と正しい判断力を身につけ、広い視野と国際的な識見を備えた有能な人材の育成」とし、また理念として「時代の変化に応える大学」、「国際人を育てる大学」を掲げ、これらの実現に向けてたゆまず努力することは、建学の精神である「自彊不息（じきょうやまず）」にも通じることとなり、当然の使命と考えている。

この目的・理念の実現のため、グローバル・コミュニケーション学部のみならず3学部の学生全員が、英語教育・教養教育・国際教育

を積極的に学べる環境を整備したいと考え、さまざまな取り組みを実施してきたが、これらを客観的に評価する仕組みがなかったこともあり、取り組み内容の見直しを図る際も、明確な方向性をもって推進することが困難な状態にあった。

このような状況下において、私立大学等改革総合支援事業「グローバル化」の設問や選択肢によって目指すべき基準等を明確にしやすくなったことから、現在はこれを活用した取り組みの企画実施が可能になっている。引き続きグローバル化を促進させるうえで、重要な指針になるものと考えている。

### 取組内容

#### ≡ グローバル社会に通用する英語教育

##### ■ 国際キャリアプログラム

国際キャリアプログラム（International Career Program、以下ICP）は、国際ビジネスの最前線、国際機関やNGOで活躍するための実践的な英語力、異文化理解、論理的表現力、問題発見・解決力を4年間で徹底的に養うことを目的に、2014年度から始まった特別なプログラムである。1年間の学部留学と英語での授業カリキュラムをセットにした

「英語で学び英語で考える」実践的な内容となっている。

15名ほどの少人数選抜クラスで、1年次から留学に向けて徹底した英語教育が実施される。ネイティブ・スピーカーの教員も多くの授業を担当していることから、海外の大学で学ぶために必要となるアカデミックスキルを学ぶ科目や、学部留学に必要な英語スコアに到達するための語学試験対策の授業が充実している。また、プログラムの大きな特長として、英語でのプレゼンテーションやディスカッション等を盛り込んだ授業カリキュラムは、グローバルな知識や複眼的な思考、異文化コミュニケーション力やデータ分析力を高めると同時に、国際社会を批判的に見る目も培い、卒業後のグローバルキャリアへの可能性を見出せるようになっている。

ICPを受講するには、グローバル・コミュニケーション学部合格したうえで、英語面接を含む選考を通過する必要がある。応募資格としては、実用英語技能検定準2級以上、TOEIC400点以上、IELTS4.0以上のいずれかの条件を満たしていることを要件としており、他の英語プログラムとは一線を画す、徹底的に英語を学びたい意欲ある学生のためのプログラムとなっている。

ICPを受講する学生は、当大学が協定を締結している協定校に加え、一般社団法人日本スタディ・アブロード・ファンデーション（以下、JSAF）の協定校も留学先として選択することができ、単位取得が可能となっている。現地での病気やトラブルにもJSAFが大学と連携しながら迅速に対応するため、学生にとっても安心のプログラムとなっている。

その他、ICP学部留学の費用支援として、留学先の授業料を全額援助する制度があり、ICPに在籍する学生の経済的な負担を軽減することで、留学しやすい環境を整えている。

## ■ ALPS（英語特別選抜クラス）

ALPS(Academic Learning and Professional Skills) は、全学部の1年次成績優秀者から20名程度が選抜される「英語特別選抜クラス」である。アカデミックとビジネスの両分野で使える英語力を身につけることを目的としており、現代社会のさまざまなトピックを教材として扱い、グループディスカッション時のメモの取り方やパワーポイント、ポスターを駆使して自身の考察を英語でプレゼンテーションする手法等、実践的なスキルを学ぶことができる。

カリキュラムの中に学部留学は含まれないが、留学するALPS学生は少なくない。ALPSで獲得した英語力を活かし、グローバル企業で調査分析に関わる卒業生や大学院進学者も輩出している。

今後は、海外企業への就職も視野に入れられるようなカリキュラムを検討している。

## ■ English Lounge



English Loungeの様子

学生がより親しみをもって英語に触れることができる空間として、English Loungeを設置している。

English Loungeでは、すべての会話を英語のみとしており、ネイティブ・スピーカーの教員、海外協定校からのインターンと学生が自由に語らえる場所となっている。学生がいつ訪れても英語の雑誌や新聞を閲覧することができる他、全週日昼休みの「ラウンジタイム」には、ランチをとりながらネイティブ・

スピーカーの教員と交流ができるため、大勢の学生で賑わっている。

海外協定校からのインターンは、1年間の契約で勤務することになり、イベントの立案や自国の文化の紹介等、English Loungeの運営の一助となっている他、英語授業や留学プログラムに参加する学生への準備サポートの業務にも従事している。

### ≡ 多様な海外留学プログラムと支援策

長期留学や短期留学、海外ボランティアや海外企業のインターンシップ等、さまざまな国際体験の場を学生に提供している。

#### ■ 短期留学

長期休暇を利用して海外の大学や教育機関で学び、語学力のレベルアップと豊かな国際感覚の養成を目指す。現地大学の語学プログラムに参加する「語学留学（海外文化演習）」、インターンシップやNPOの活動の現場等を訪問する「海外インターンシップ等（国際体験演習）」といったメニューを用意している。

短期留学の支援策としては、参加費用を計画的に準備することを目的として積立奨励金制度を設けている。あらかじめ定めた金額を大学の指定した口座へ毎月積み立てることで、留学時に払い戻しを受ける際には、積立金の返戻と併せて奨励金を支給している。

#### ■ 長期留学

半年ないし1年にわたって海外の大学や大学付属の教育機関に学籍を置き、語学や専門分野の学修を通じて、国際的視野を持ち、社会に貢献できる学生の育成を目指す。留学先で修得した単位は審議の結果、当大学で修得した単位として認定されるため、休学することなく、4年間での卒業が可能となっている。

長期留学の支援策としては、留学期間中の当大学に対する授業料の90%を減免することに加えて、成績優秀者にはGPAの評価や教員

の推薦などから一定の助成金を支給している。

### ≡ 協定校のサマースクール受け入れ

毎年、米国のサム・ヒューストン州立大学（以下、SHSU）の学生と教員が来日し、当大学でサマースクールを実施している。約1か月にわたって海外の学生と同じキャンパス内で過ごすことになるため、学内で留学気分を味わうことができる。

両大学の学生が、都心のキャンパスならではの浅草や秋葉原といった近郊ツアーや創立者・宇田尚ゆかりの日本家屋「栃木寮」への一泊旅行で交流を図る他、ゼミナールの授業にSHSUの学生を招き、英語で日本文化の紹介や名所・スポットの案内をするなど、学生にとっても普段経験することのできない貴重な交流の場となっている。



SHSU とのサマースクールの様子

### ≡ 「鑑真杯」中国語スピーチコンテスト

中国語の力を磨いて文化の理解を深めることを目的とし、協定校である浙江旅游職業学院（中国）との共催による「鑑真杯」中国語スピーチコンテストを開催している。毎年、9月から募集が始まり、コンテストに参加する学生は、12月の本番に向けて猛練習する。コンテストは暗唱・朗読部門とスピーチ部門に分かれて行われ、学生のこれまでの学修成果を披露する場となっている。2010年から始まり、10回目を迎える今回は両部門合わせて26名が参加し、例年通り上位3名の学生に中国

研修旅行（短期留学プログラム）が贈られた。

この取り組みは、外務省の「日中青少年交流推進年」行事として認定を受けている。



「鑑真杯」中国語スピーチコンテスト表彰式の様子

## 実施体制

学内のグローバル化に向けた各取り組みは、国際交流センターと英語教育開発センターが中心となって企画実施しているが、ICPについては、運営委員会が別途設置されている。現在、ICPは学部横断的プログラムとして3学部からの受講が可能となっているが、2020年度からは専門性を高める目的からグローバル・コミュニケーション学部の学生のみが履修対象となっており、運営委員会と学部が協働で運営している。また、大学のグローバル化を図る上でのビジョンの策定等、全学的な調整・共有が必要な事項については、学長、副学長、学部長、センター長で構成される大学運営協議会がその役割を果たしている。

## 成功のポイントや苦労した点

さまざまな取り組みを実施していく中で、グローバル化に向けた意識を学内で醸成でき

たことが功を奏している。学生が語学や海外文化に興味を持つようになった表れとして、徐々にではあるが、短期留学プログラムの参加者数が増加している。また、English Loungeや授業等を通じたネイティブ・スピーカーの教員やインターン、海外協定校の学生との交流から、実際に海外に足を運んでみたいという意識につなげることができている。

一方で、ICP履修者による学部留学及び長期留学に関しては、参加者数を伸ばすことに苦勞をしている。両取り組みは、留学期間が半年から1年と長く、食費・寮費等、かかる費用も高額なことから、留学を希望しながらも実現できない学生が少なからずいる。ICP留学先の授業料を当大学が支援したり、長期留学においては、留学期間中の当大学への授業料を免除したりするなどの経済的な支援策を提供しているが、現段階では留学生数は少しずつ増えるにとどまっている。

## 今後の課題・展望

留学者数の増加を今後の大きな課題として捉えており、経済的支援のみならず、多方面から学生が留学しやすい環境整備を進めていきたい。また、協定校ともより多くの交換留学ができるよう信頼関係の構築に努める他、これらのグローバル化に向けた取り組みによって、学生や教職員を含めた学内の意識をさらに高めると同時に、長年培われてきた英語教育・国際教育の力を学外にも認知されるようなブランド力の向上にも努めていきたい。

改革成果を示す客観的な数値データ（抜粋）

| 実績項目           | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 短期留学プログラム参加者数  | 45人    | 45人    | 48人    | 54人    | 56人    |
| 海外インターンシップ参加者数 | 8人     | 15人    | 6人     | 5人     | 4人     |
| 長期留学者数         | 3人     | 4人     | 2人     | 4人     | 11人    |
| ICP履修者数（入学時）   | 8人     | 11人    | 13人    | 14人    | 13人    |
| ICP留学者数（2年次）   | 5人     | 3人     | 3人     | 7人     | 11人    |